

令和元年 図書館情報学海外研修助成報告書（抜粋版）

図書館情報メディア研究科 博士前期課程1年
安 竟毓

1 研修概要

研修テーマ：中国における地震災害档案研究—四川大地震を事例—

研修期間：令和元年9月15日～9月23日

訪問先：四川省档案館、成都市档案館、四川省図書館

“5・12”汶川特大地震記念館、“5・12”汶川特大地震映秀震中記念館

2 研修目的

2008年5月12日四川大地震（5・12汶川地震）以降、中国国家档案局では地震災害档案を管理する指令を出し、各地の地方档案館もその方針に従って地震災害档案を管理している。『中華人民共和國防震減災法』（2008年改正）第七十一条では「地震被災地を所管する県級以上の地方人民政府は、関連部門と事業者を組織し、関連档案や資料に対する補修、保護および収集整理を行い、地震災害によって遺失、毀損した档案や資料について、速やかに補充または復元しなければならない。」と定められている。一方、『四川省重大活動档案管理弁法（試行）』（2008年）では全国または全省に大きい影響を与える自然災害などの処置活動を重大活動の一つとして扱い、各級の档案局は重大活動档案に関する収集・整理を監督・指導・協調すべきであると定められている。このように、被災資料の救出と震災資料の保全の必要性は法律で定められており、各地の档案館もこの方針に従って地震災害档案を管理している。

そこで、今回の研修では、四川大地震に関する地震災害档案の実態と档案局が資料を救出と保全するための取り組みを解明することを目的とする。

3 档案、档案館（局）について

総合档案館である四川省档案館と成都市档案館は、行政区域の所轄範囲内の多種目の档案を収集・管理する役目を負っている。一つの組織に二つの名前がある形で档案局と档案館の名前は異なるが、担う機能や業務内容は同じである。例えば、四川省档案局の局長は四川省档案館の館長も兼任している。

4 研修内容

① 四川省档案館、成都市档案館

2018年5月の中国档案報によると四川省抗震救災指揮部、四川省重建委、各地各部門が抗震救災、復興再築活動で形成した文書資料と被災地における医療、物資、防疫などの工作配置に関する相關文書、つまり“5・12”汶川特大地震档案資料が四川省档案館に移管された。よって、事前に四川省档案館と成都市档案館にメールを送ったが、返信をもらえず直接両館に伺ったところ、この資料と目録は非公開資料であることがわかった。

成都市档案館では持ち帰り自由な『“5・12”大地震での成都档案人』（A5判、180頁）という本が何冊展示されていた。本書では成都市档案局が災害直後から半月間の取り組み、抗震救災に関する行政文書、局（館）長と職員による日記式文書が記載されている。

② 四川省図書館

被災資料を救出し、震災資料を保全するため、各級档案局の取り組みに関する調査は被害が大きい各市、県の年鑑を対象に文献調査を行った。主に档案館の被災状況と収集された档案資料の実態について述べている。

・『四川年鑑（2009）』

四川大地震が発生後、全省118個の档案館、380万巻の档案が被害を受けた。四川省档案局は全省の

アーキビストを指示し、被災档案 100 巻を救出した。災害後に作成された文書資料 4.2 万件、写真 7 万枚、音声映像資料約 400 時間が収集された。災害直後、四川省档案馆は河北省档案馆、雲南省档案馆と連絡を取り、整理後の 1976 年唐山地震と 1996 年麗江地震に関する档案資料を四川省関連部門に送った。この档案資料は四川省における震災救援活動と復興再築活動に重要な参考となった。

・『綿竹年鑑 (2009)』

綿竹市档案馆は大きい被害を受け、1.7 万巻档案資料を救出し、上位市である徳陽市档案馆に移管させた。そして、各部門に地震後形成された档案資料、音声映像資料、実物資料の収集と保存するよう通知を下した。年末まで抗震救灾に関する仕事で形成された写真 12000 枚、資料 300 件、CD-ROM147 枚が収集された。

③ “5・12”汶川特大地震纪念馆、“5・12”汶川特大地震映秀震中纪念馆

“5・12”汶川特大地震纪念馆は四川省北川羌族自治县曲山镇に位置し、中国唯一の国家级地震テーマ纪念馆である。本纪念馆は 2 階建ての室内館と室外の北川老县城地震遗迹に分けており、室内館は 1 階「はじめに」「被災地展示区」「抗震救灾展示区」、2 階「復興再築展示区」「偉大な精神と功績展示区」「おわりに」によって構成されている。「はじめに」の入り口の巨大なレリーフと「被災地展示区」に展示された地震によって壊れた車や自転車と時計は地震当時の救出活動と被害状況を生々しく表現したのが印象的であった。展示品は写真だけでなく、当時各行政機関が印刷した現行文書や手書き文書、人探しポスト、倒壊した建物を掘り起こす用のスコップやショベルカー、四川省财政厅が省内各市财政局への支出を証明する領収書などの文書記録と実物資料もある。



“5・12”汶川特大地震映秀震中纪念馆は四川省汶川县映秀镇渔子溪村に位置し、2012 年から開館された。「はじめに」「被災地展示区」「抗震救灾展示区」「復興再築展示区」「防震减灾展示区」6 つのコーナーで構成されている。本館の展示区に関する詳細はホームページで検索することができる。

5 まとめ

四川省档案馆と成都市档案馆に移管された“5・12”汶川特大地震档案資料は四川省各行政部門から収受した資料であるため、「中華人民共和国档案法」第十九条によって資料生成日から 30 年間非公開とされている。『“5・12”大地震での成都档案人』によると成都市档案馆の職員は地震が起こった直後、震災地に赴き、被災資料を救出する同時に地震後生成された行政資料及び地震当時の姿を表す資料を保全する取り組みは成都市档案馆がより先見性がある行動を取っていることがわかる。二つの地震纪念馆は被害が大きい地域で建てられ、被災の記憶を継承する同時に地域活性化を推進することができた。しかし、四川省の都心である成都市から車で片道 3 時間もかけることは不便である。このような現状で纪念馆と各地の档案馆や博物館との提携し、短期展示などの活動が期待される。

本研修では、地震災害档案の実態と被災資料を救出し、震災資料を保全するため、四川省档案局と各級档案局が取り組んだことを調査した。今後は今回の調査結果を整理し、研究に生かしていきたい。